

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名: さわれる人間調和型情報環境の構築と活用
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名(研究機関名・職名は研究参加期間終了時点):

研究代表者

舘暲 (慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 特任教授)

3. 事後評価結果

○総合評価コメント:

触原色原理を中心とした「さわれる情報環境」に関し、人間の触覚知覚機構に関わる研究を進め、触原色原理の生理学的・心理学的な検証を進め錯触覚を見出した。これに基づき、デバイス設計法、触感コンテンツの制作・編集手法、3次元的な視覚と触覚のクロスモダリティを実現した体験環境の構築、これらを統合した実証システムの構築までを行った。これらの成果は、国際的学術誌や SIGGRAPH 等のトップカンファレンス論文を含む 50 編の原著論文として発表されている。新しい触感の表現形式の提案、および、触覚ディスプレイの先駆的な研究であり、国内外の研究者に大きな影響を与えた。オープン・イノベーションによる触覚表現の普及展開による多くの企業との共同研究実施は高く評価できる。成果をまとめた TECHTILE toolkit に関して、他の教育研究機関や企業への提供が開始され、報告書提出時点で既に国内外へ 150 台以上の提供実績を有する。さらに、日本科学未来館における常設展示・企画展示や SIGGRAPH Emerging Technologies における国際展示など、市民と専門家双方を対象とした数多くの体験、評価の機会が持たれてきている。ほぼ実用的な触感伝送ができる段階になり、JST-ACCEL にも採択された。